

# 木本小だより

令和4年度 第7号  
2022年9月30日発行

## 「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果分析と今後の取組について

本年4月19日（火）6年生で実施された「全国学力・学習状況調査」の結果分析と今後の取組について、下記の通り報告させていただきます。この調査は「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証サイクルを確立する」ことを目的にしています。

（「令和4年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文科省）」より）

### 1. 教科に関する調査結果について

教科に関する調査結果については、先日公表された熊野市の小学校の調査結果と同様、平均正答率については、全国・県平均と比べて3教科とも下回ってしまいました。しかし、個々の学習状況を見ると得意分野を活かし、どの教科でも全国・県・市の平均正答率を超える児童がいました。

### 2. 教科別の課題分析（強み、課題、対策）

#### （1）国語

##### 強み

- 最後の問題まで、粘り強く取り組むことができた。
- 物語文の登場人物の心情理解ができています。
- 文の中での語句のかかり方や語順、文と文の接続などに着目して正しい文、文章が書ける。

##### 課題

- 漢字の読み方について、特定の読み方は覚えているが、読み替えが苦手。
- 人に伝えるなど、目的に応じて筋道の通った文章となるよう文章を構成する力が弱い。
- 自分の考えや思いを伝えることが苦手。

##### （対策：これからどうしていくか）

- 漢字学習では、さまざまな読みを使って、例文を書く。
- 振り返りの際、相手の考えを聞いて、どう思ったかを書く。初めは、書く順序を示して、型に当てはめて書く練習をする。
- ペア学習・グループ学習を多用する。机をコの字にして話し合う。話す人の方を見たり、相槌をうったりしながら聴くなど、聴く姿勢を指導する。
- 安心して自分の考えを言えるような子どもたちの関係をつくる。
- 読書活動を充実させる。

#### （2）算数

##### 強み

- 表やグラフの読み取りがよくできている。

##### 課題

- 算数の問題を現実の生活と結びつけることができていない。
- 割合と量の関係がわかっていない。
- 問題の意味が読み取れていない。
- 図形の性質が理解できていない。

##### （対策：これからどうしていくか）

- どの図形でも性質や特徴が言えるように何度も確認する。
- 問題の答えが実生活と結びついているか答えを予想し、確かめる習慣をつける。
- 授業を評価し、できていない課題を宿題で出す。

#### （3）理科

##### 強み

- 生き物や生命に関する問題について、問題を解決するために論理的に考えることができる。

- ・ 実験器具の使い方や目盛りの読み取り方を理解している。

#### 課題

- ・ 影と太陽の関係について理解していない。
- ・ 物の溶け方について、条件を変更したときのことについて考える力が弱い。
- ・ 実験器具の名前を覚えていない。
- ・ グラフや表から結果を読み取り、考察する力が弱い。
- ・ 実験からわかることの考察が弱い。

#### (対策：これからどうしていくか)

- 実験の度、実験器具の名前を確認する場面を増やし、定着させる。
- 天気や太陽など光の性質について深く理解できるように、実験結果から考察したり、分かったことを整理したりするようにする。
- 第3学年「光のせいしつ」「かげと太陽」、第5学年「もののとけ方」について重点的に取り組む。

### 3. 児童生徒質問紙の特徴的な傾向

#### 質問に対して、肯定的な回答をしている児童が多い項目（長所・強み）

##### 「当てはまる」と「どちらかと言えば、当てはまる」の回答をする児童が多い項目

- 携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。
- 将来の夢や目標を持っていますか。
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。
- いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか。
- 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

#### 質問に対して、否定的な回答をしている児童が多い項目（短所・弱み）

##### 「当てはまらない」と「どちらかと言えば、当てはまらない」の回答をする児童が多い項目

「普段1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム・携帯式ゲーム・携帯電話やスマホを使ったゲーム）をしますか。」「普段1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマホでSNSや動画視聴をしますか。」の回答から携帯電話、スマホ、コンピューター機器の長時間の使用がうかがえます。一方で、ほとんどの子どもは、「携帯電話やスマホ、コンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っていますか。」という質問項目には、「守っている。」と答えています。今一度、長時間使用とならないよう話し合ってもらいたいと思います。これらに時間を費やし、家庭での学習時間が、平日、土日とも短いことがうかがえます。半面、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の項目は、全国平均をはるかにこえています。継続して取り組んでいる「自学ノート」の成果がみえ始めたものの、引き続き、家庭での学習時間、生活習慣が大きな課題となっています。

#### 学校の教育活動について問う、「学校質問紙」について

学校は、子どもたち一人ひとりの学習内容の定着状況を把握しながら、子どもたちが主体的に取り組める授業づくりや、自学ノートの取組などを進めるとともに、一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する取組を行っています。「学校質問紙」には、その取組について回答しています。県全体や全国と比較することで見えてくる課題もあります。子どもたちの質問紙の回答と一致しない場合もあります。

学校としましては、今回の結果分析をふまえ、よりいっそう①基礎学力の定着 ②わかりやすい授業の展開 ③家庭学習など学習習慣の定着に取り組み、子どもたちの学力の向上に努めたいと考えています。様々な取組はもちろん、授業において「すべての子どもに出番」のある授業づくりを進めます。また、さまざまな場面で「褒める、認める、励ます」ことを通して、自尊感情の醸成に努めたいと思います。

つきましては、保護者・地域の皆様におかれましても、子どもたちの成長にむけてご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。なお、ご意見やご質問等がございましたら、ご遠慮なく学校までご連絡ください。

